

北海道の元気! NPO訪問

29 NPO法人 アルテピアッツァびばい

文・加藤知美

彫刻公園「アルテピアッツァ美唄」を運営 かけがえのない空間を市民の手で次世代へ

◇ 廃校舎を再生した芸術広場

この秋、札幌中心部の大通公園、駅前地下歩行空間などに大きな彫刻が次々と置かれ、街の眺めが変わったことに驚いた方も多いと思う。美唄市出身で北イタリヤの大理石の産地ピエトラサンタを拠点に活動続ける彫刻家安田侃^{かん}さんの野外彫刻展だ。

その安田さんが故郷の廃校跡を再生した彫刻公園が「アルテピアッツァ美唄」である。アルテピ

アッツァとは、イタリヤ語で「芸術広場」を意味する。かつて小学校の体育館だった建物をおよそ二十年前に彫刻展示空間としてよみがえらせたことからスタートし、一人の芸術家が創り続けるかけがえのない空間を、広く市民の手で次世代につなげていこうという挑戦が始まっている。

アルテピアッツァ美唄は、道央道美唄インターを降りて五分ほどのところにある。約七万平米の敷地に大理石やブロンズなどの彫刻作品四十数点が置かれ、周囲の木々や清流などと調和し四季おりおりの表情をみせている。ギャラリーに置かれたノートにはここを訪れた人々のメッセージが残され、深く感動し「また来ます」とたびたび記されていることから、多くの人が自然と芸術と自分の静かな対話の時間を過ごしていることがうかがえる。

かつて北海道有数の炭鉱都市として栄えた美唄市は、一九七三年に最後の炭鉱の灯が消えるや人々が去り、子どもの少なくなった学校は閉校した。のちに故郷にアトリエを探していた安田侃さんが旧栄小学校に出会い、木造校舎の一階に入っていた幼稚園に通う子どもの姿に希望を感じて「広場」をつくろうと決め、その思いに共感した市役所の若手有志などが尽力してアルテピアッツァ美唄が誕生した。木造校舎の一階は今も子

もたちが元気に通う幼稚園があり、二階部分がギャラリーとなり、一歩足を踏み入れると懐かしい思いがする。

芸術文化交流施設として、当初は美唄市教育委員会が直接管理を行なった。徐々に拡張するにしたがって、非常勤職員が配置されるようになり、二〇〇六年に指定管理者制度が導入されると、これをきっかけに「NPO法人アルテピアッツァびばい」が設立され、管理運営を受託している。

◇ サポーターのコミュニティ創設、広がるボランティア

NPO法人アルテピアッツァびばいでは、アトリエを通じて地域と人、人と人を結ぶ場として再生された空間を市民の力でしっかりと支えていくために様々な工夫をしている。

昨年からは始めた「アルテ市民ポポロ」は、地域の枠をこえてアルテピアッツァ美唄を支える思い



アルテピアッツァ美唄。池のある広場は夏は水遊びをする子どもたちでにぎわう。



「こころを彫る授業」は見えないものをカチにする挑戦

「こころを彫る授業」は見えのないものをカチにする挑戦。この「こ

を共通項としたコミュニティだ。全国各地から訪れてこの空間に感動し、かけがえのないものとして守り続けようという思いに共感してアルテピアッツァ美唄を「こころのふるさと」とする「市民」が増え続けている。年間三〇〇〇円の「市民会費」を納入し、ときどき訪れたり、さらには積極的にボランティア活動に取り組み「ポポロ」もいる。また、NPO設立当初から冬場を除いて毎週続けられているのが、アルテピアッツァ美唄をきれいにする活動である「クリーン会」だ。毎週土曜日の朝八時半から一〇時までの間で都合の良い時間に行って草むしりや折れ枝拾いなどをするボランティア活動である。広大な面積の大半は常勤スタッフが刈払機や乗用草刈機などを用いて手入れをしているが、通路沿いや階段部分などは丹念に手で草むしりをする必要がある。また、旧体育館のアウトスペースで時折開かれるコンサートや、NPOが主催するイベントなどの運営も、ボランティアによって支えられている。こうした積極的な活動で支えていくという「ポポロ」ボランティアの多くは、「こころを彫る授業」参加の経験がある。

こころを彫る授業」とは、大理石などを彫って自分のこころを形にするワークショップだ。ノミやかなづち、やすりなどの道具を使って自身のこころを向き合いながらコツコツ石を彫る時間を過ごす。毎月第一土日に開かれているが、時には安田侃さん自らが指導することもある。石を彫っている間は一心不乱だが、作業を終えた後など、ふと隣の席の人の存在に気づき、会話を交わすうちに意気投合し、さらにはアルテピアッツァ美唄を守る活動に共感の輪が広がる。

NPOの自主事業として実施されている「こころを彫る授業」とともに収益面の柱となっているのがカフェの運営だ。カフェの大きな窓からは彫刻や周囲の森が見渡せて、丁寧にハンドドリッパされたコーヒートの香りとともに、ゆつたりとした時間を過ごすことができる。手作りのケーキや美唄産小麦のパンなども提供している。このカフェを活用して年に数回は十五夜や夏至など季節の節目に朗読や音楽を楽しむ催しもある。その後の交流会ではカフェスタッフがボランティアスタッフが力を借りて用意する料理の数々が並び、和やかな時間が過ぎていく。

◇ 地域をこえて広がる活動

日常的にNPOの事業を担う常勤スタッフは九名。ギャラリーでの来訪者への説明や彫刻の清掃、芝や樹木の管理、カフェ業務など多岐にわたる。雪の積もる冬も開館しているが、来訪者の多い夏場は多忙を極める。団体への施設説明や視察対応、さらには雑誌の取材やテレビの撮影なども夏に集

中するからだ。

また、施設の管理運営以外に、炭鉱に関わる有形無形の歴史遺産を後世に伝える活動も行ない、炭鉱写真展を開いたり、

往時の賑わいを偲ぶ盆踊りを開催したりもしている。

今年春、札幌市にできた創成川公園に設置された安田侃さんの彫刻を定期的に掃除するという「ポポロ」の活動も生まれた。札幌や小樽在住の「アルテ市民」に地域をこえて広がる思いが原動力となっている。

一人の芸術家と、その思いに応えようとする行政、そしてその場を大事にして次の世代につなげる活動をする市民という三つの主体が、この先も新しいスタイルの協働を生み出していくことが期待される。



毎月第3土曜日に札幌市の創成川公園にある安田侃さんの彫刻の汚れを落とす活動

◆ NPO法人アルテピアッツァびばい

所在地 美唄市落合町栄町

TEL 0126-63-3137

WEB <http://www.artopiazza.jp/>